



©シックスセンス 京都

Six Senses Kyoto

自然派ラグジュアリーホテル「シックスセンス 京都」が京都に初上陸、ICA ではホテル全館のアートコンサルティングから施工までを担当しました。平安時代の華やかさを象徴する「雅」にインスピレーションを得たデザインと、シックスセンスならではの「愉快さ」の融合。その空間を彩るアートワークは、日本の伝統的な世界観として今も京生活に根づく「ハレ（特別な日）とケ（日常）」の2軸をコンセプトに、優雅さと遊びごころのはざまにこそある、発見と奥行きのある Six Senses Experience を演出しています。



物件名
シックスセンス 京都
開業
2024年4月
事業主
ウェルス・マネジメント株式会社
インテリア設計
BLINK Design Group

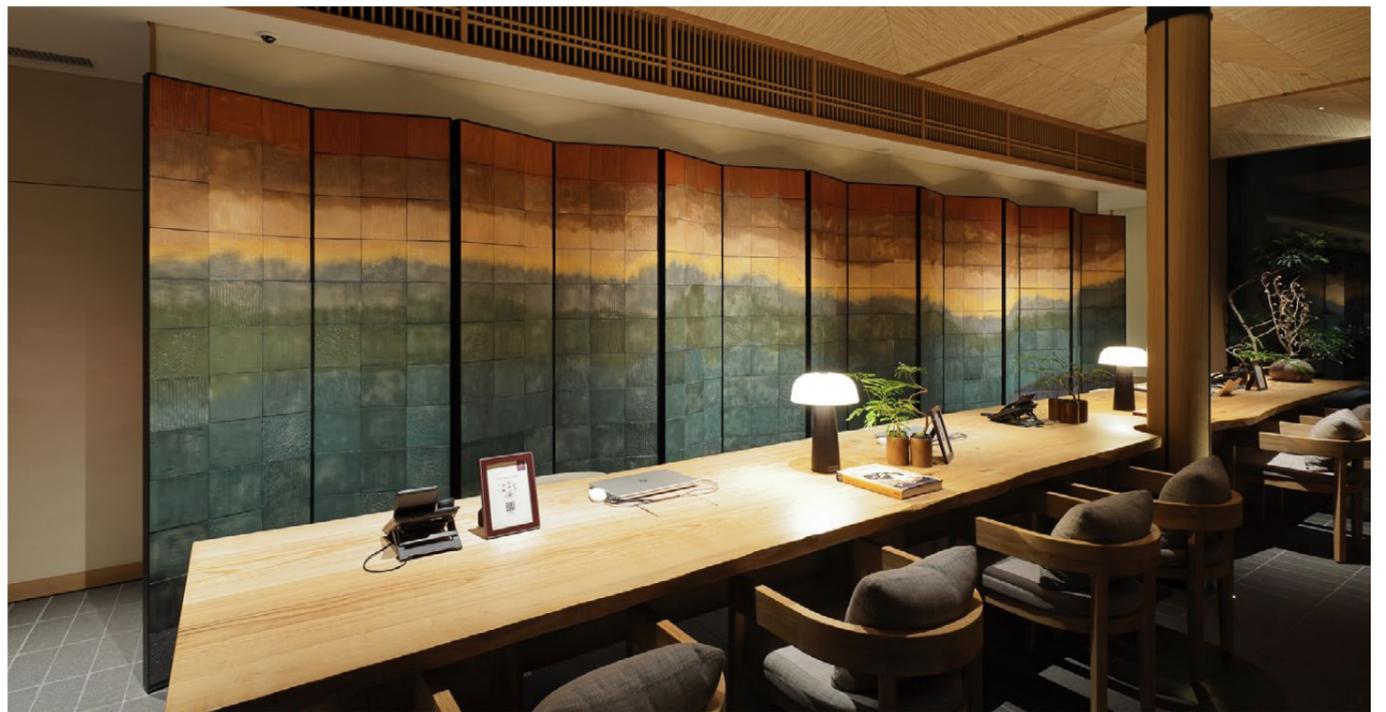
L1 Arrival Lobby

メインロビー・レセプションエリアの象徴的な2点のアートワークは、対面する大きな壁面で「ハレとケ」をひとつの大きな空間の中で体現しています。ハレは、京都が誇る伝統的な楽焼の技術によって描かれた大きな屏風絵。ケは“日本最古の漫画”と呼ばれる鳥獣人物戯画をユーモアたっぷりにアレンジしたメタルアート。いずれも新しいアプローチを通して、歴史・伝統を今に繋げる、鮮度と存在感あふれるアートとなっています。



Memories of A Tale

ゲストを迎えるホテルのレセプションには、一説には紫式部が源氏物語の舞台のひとつとして選んだとされる鞍馬山をモチーフとした「楽焼」による大きな屏風絵を設置しました。本来茶器を主流とする楽焼の工法を用いて500枚以上の陶板を制作。鞍馬山の四季の移り変わりを彷彿させる色彩のグラデーションや奥行きを生み出す陶面加工は、一枚一枚が作家の手仕事による賜物。やさしく包み込む壮大な風景を、京都を代表する伝統工芸の新たな挑戦が見事に表現しています。



The Wit of Storytelling

絵巻物から動物たちが飛び出す愉快的瞬間を、スケールアウトした大きなメタルアートで表現しています。メタルとは思えないしなやかな巻物と、今にも歩き出しそうな微笑ましいシルエットの動物たち。これはスタイルの異なる2人のメタル作家のコラボレーションにより実現しました。



L1 Entrance

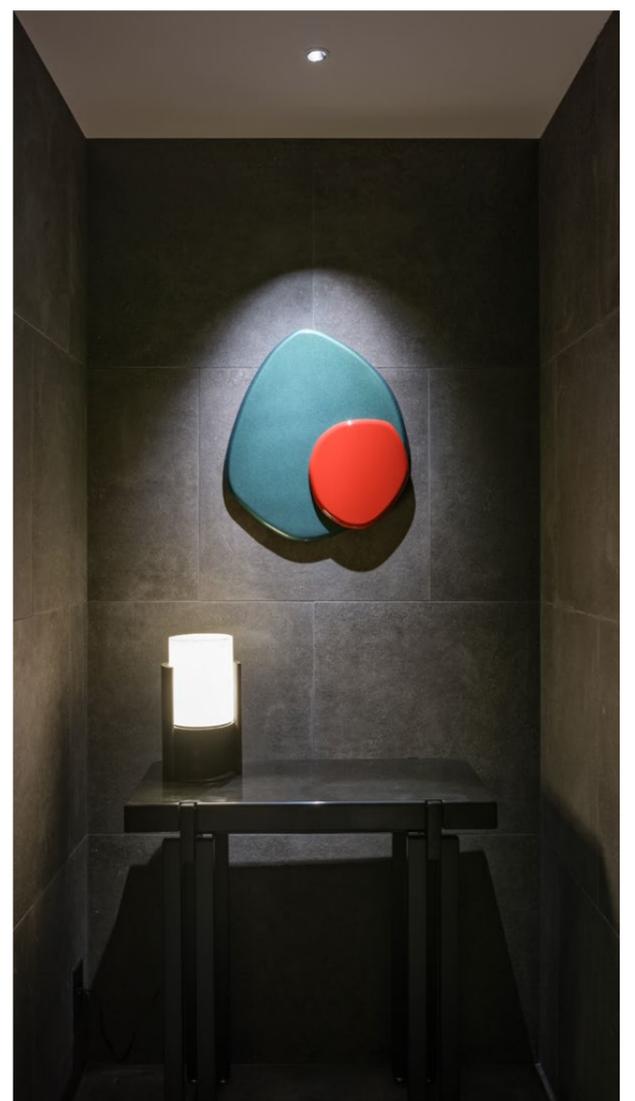
A Special Welcome

引箔は、和紙の上に色漆などで色を塗り、金銀箔で模様をつけた原紙をおよそ0.3ミリに裁断した表現力豊かな金糸の一種で、西陣織の豪華絢爛さを支えています。エントランスの特別な空間は、絵画のような奥行きや深みを持つ色、華やかな原紙そのものの美しさと職人技にフォーカスしたアートでお客様をお出迎えします。



L1 Pre-function

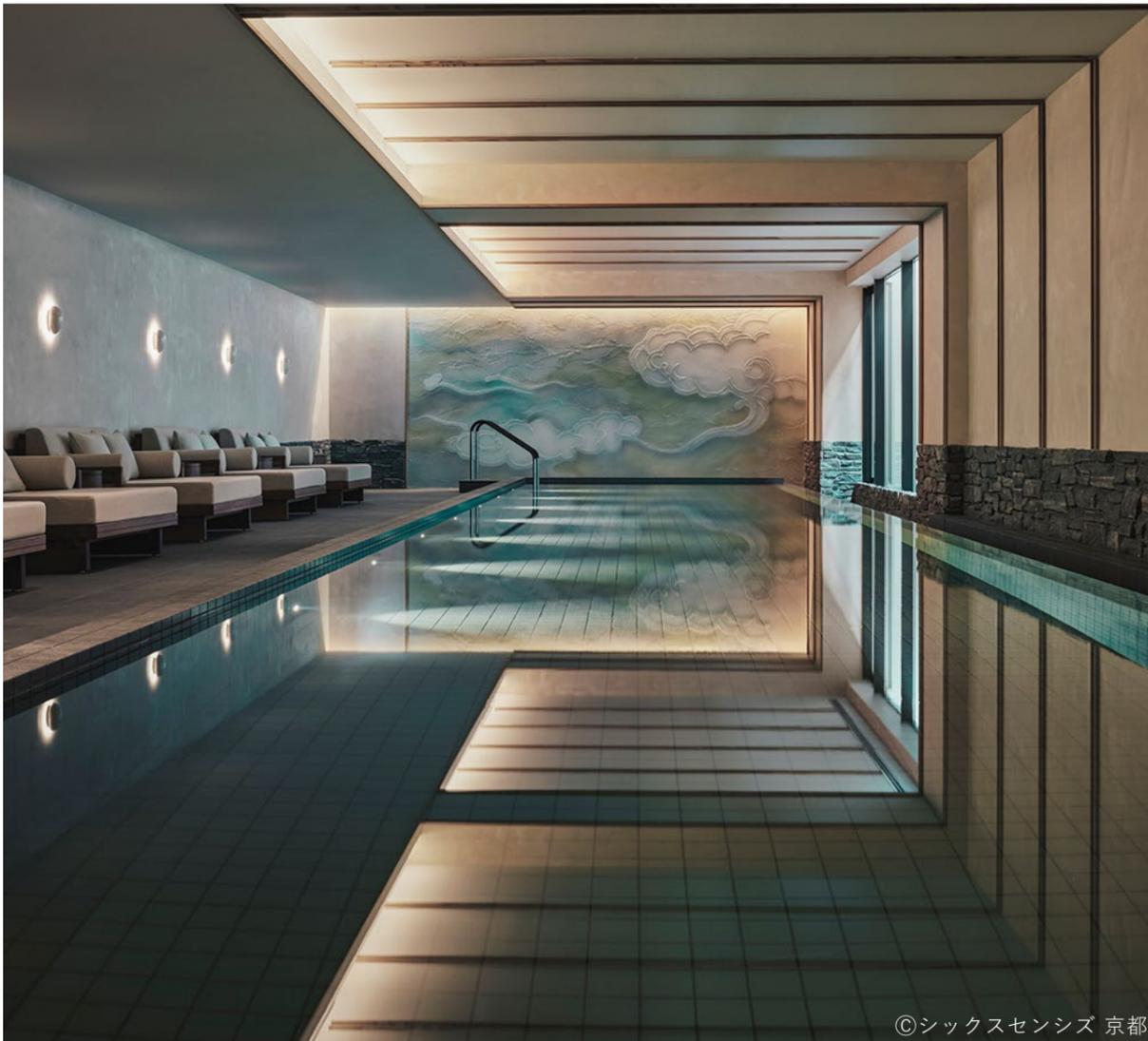
プレファンクションの壁面を飾るアートも引箔が用いられています。日本語の「ひらがな」は、平安時代に日本の国風文化として生まれたもの。書家による「引箔」を用いたくずし字の表現は、日本の文字が持つ独特な美しさを深く表現しています。



LB1 Pool

Journey through Time

プールの大きな壁画には、源氏絵巻にインスピレーションを受けて時空間を超えそうな神秘的な雲を描きました。源氏物語の世界に飛び込む、特別な空間が生まれています。

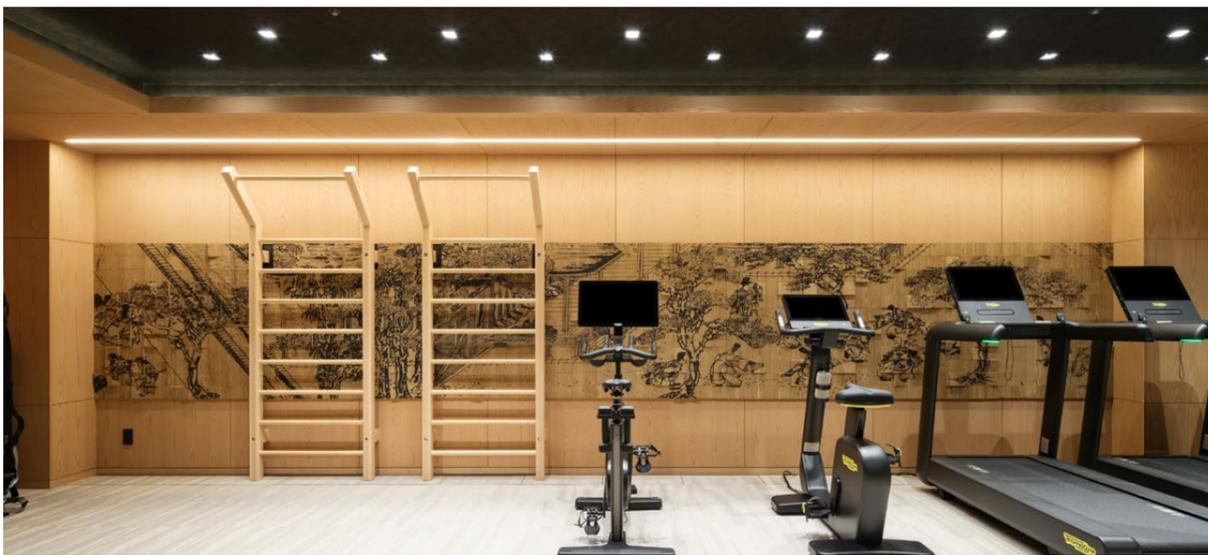


シームレスな白の背景に浮かび上がる天の川。アートと季節ごとに変わるライティングとのコラボレーションで、この特殊な空間での唯一無二の時間を演出しています。

LB1 Gym

Elegance of Movement

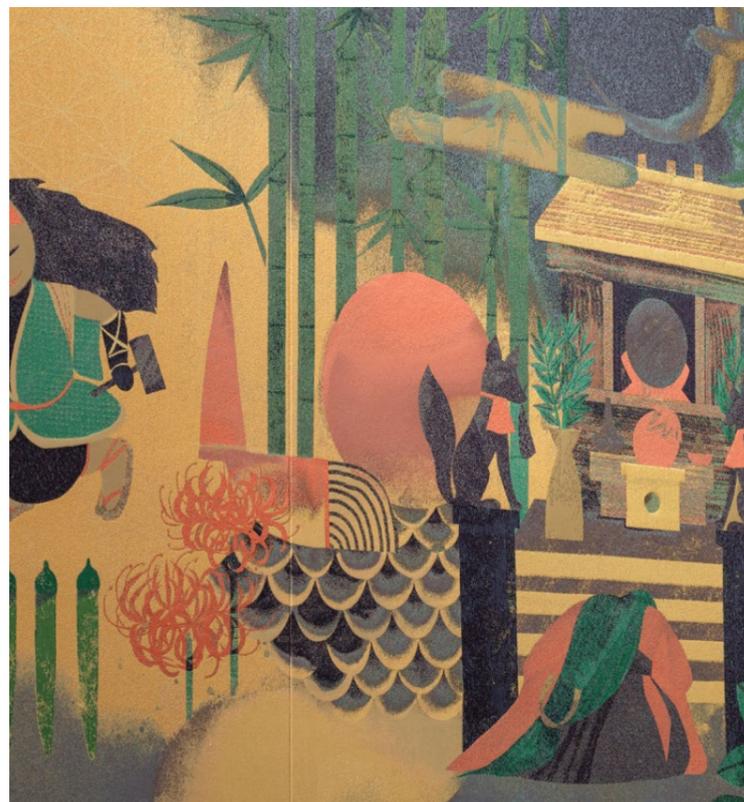
ジムの壁面には、平安時代には宮廷競技として広く親しまれていた「蹴鞠」をモチーフとしたウッドアートを設置しました。蹴鞠は勝敗を争うものではなく、相手が蹴りやすいように蹴ってできるだけラリーを続け、その姿の優雅さや音の美しさなどを楽しむという粋なスポーツです。カットされた無数の木板を上下左右異なる向きで配置することで、毬の優雅な軌跡を表現。アートを通して蹴鞠の躍動感が伝わってきます。



LB2 All Day Dining

Kyoto-Grown Talks

京都のいたるところに隠されている逸話の数々は、昔の人々が紡ぎ出し、現代にも多く語り継がれています。レストランの空間に登場するのは、どこかで見たことのある伝説の生き物たちが織り成す愉快的宴のワンシーン。よくみると、ところどころに賀茂茄子、水菜、聖護院大根、金時人参、九条葱など、京都が誇る「京野菜」の数々が登場し、All Dayらしい会話が弾みます。



ユーモアあふれるイラストレーターの世界観は、西陣織という伝統的なアプローチで再構成され、これ以上ない京都の醍醐味を感じるアートワークとなっています。

LB2 Cocktail Lounge Bar

Calmness of Adults

ノスタルジックな雰囲気漂うカクテルラウンジには西陣織の技法のひとつ引箔が空間を絢爛にかざります。光に浮かび上がる金箔のミストが京都夕景に染まる雲海のようなのです。





LB2 Earth Lab.

「アースラボ」は、Six Senses が実践している、サステナビリティに関する幅広い取り組みを紹介する特別な場所。その空間を象徴する天井の無数の木短冊のアートワークにも、環境や自然とのつながりを大切にする、その想いが込められています。



LB2 Corridor

Choju-Giga - 鳥獣人物戯画

館内に潜むユーモラスな動物たちは平安末期に描かれた絵巻物「鳥獣人物戯画 甲巻」の住人です。B2 階廊下では甲巻全シーンをアートパネルで紹介しています。コミカルなしぐさに思わず笑みがこぼれます。



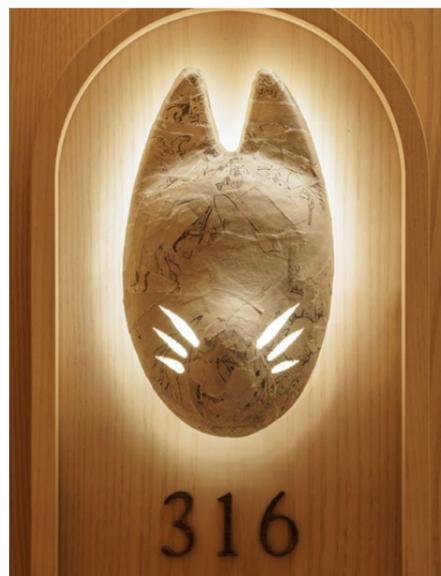
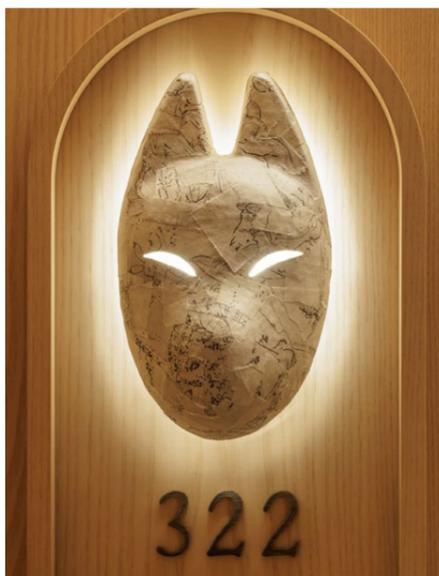
Lift Car



Guest Room Corridor

Kyo-Legend Story Teller - 京の狐伝説

京都は、数多くの狐にまつわる伝説が各地に残されている場所でもあります。その恰好の舞台が京都で「ろーじ」と呼ばれる細い通り、路地。街を歩けば、いたるところに見つかるこの路地の始まりは平安時代にまでさかのぼります。そんな「路地」に見立てた客室廊下には、Do Not Disturb サインの役割を担う狐のお面が、お客様を京の狐伝説の神秘的なで愉快的な世界へと誘います。光るのは髭だったり、眉だったり、目だったり。遊び心溢れるおもてなしは、シックスセンスのサスティナビリティと自然環境・地域社会との共生を理念理念をも意識し、全室を飾るこのアートワークは再生和紙を使用してひとつひとつ手作りされています。



Penthouse Suite

Nature Tales of Kyoto

ペントハウススイートには、長い歴史の中で生み出された京都ならではの街並みや自然の美しさをテーマに、オリジナリティあふれる力強いアート作品を設置。飾るアートワークではなく、室内の壁一面などインテリアデザインの設えとして完成させる、特別感のある空間をアートが演出しています。



©シックスセンス 京都

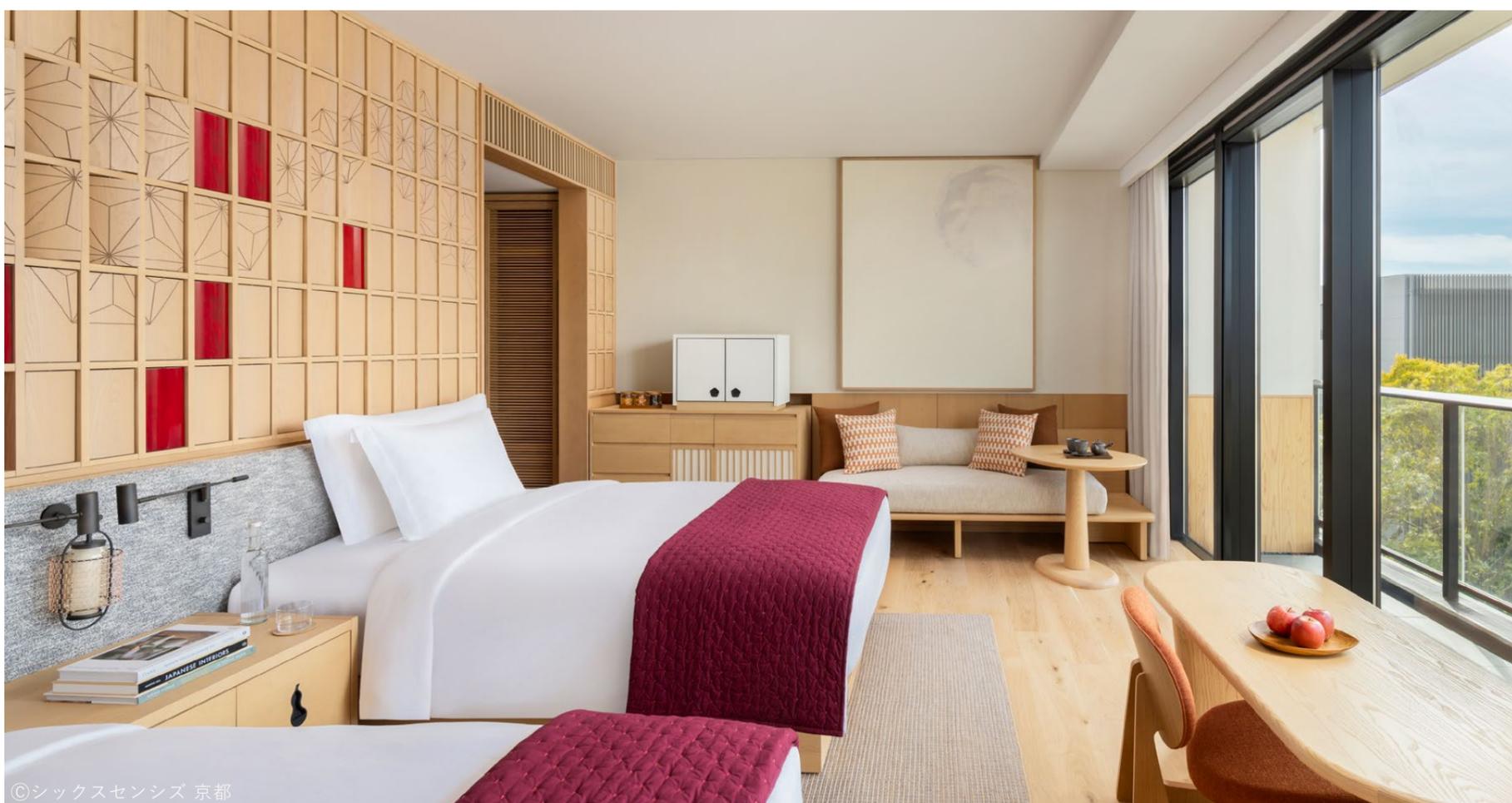


Guest Room

Kyo-Legend Story Teller - 月兎

和歌に詠まれ、かぐや姫の故郷とされ、中秋の名月などのお月見行事に見られるように、日本人は古くより月に魅せられ、月を愛でてきました。

月の模様は、海外では仙女や蛙、カニや女性、編み物をするお婆さんなど様々な見られ方が伝えられていますが、日本といえばやはり「餅つきをするうさぎ」。客室のTVパネルには、スタッコ（漆喰）で一部屋一部屋、直接大きなお月様を描きました。



©シックスセンス 京都

ICA

Interculture Art Inc.

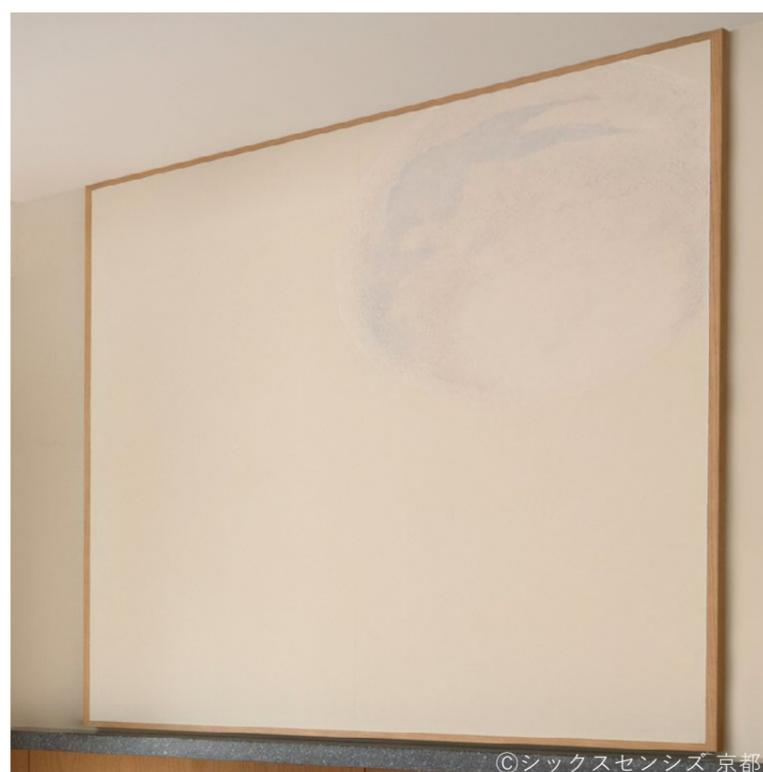
ICA Bldg. 4F, 560-2
Waseda-Tsurumakicho,
Shinjuku-ku, Tokyo 162-0041

t: +81(0)3-3207-3911

e: contact@intercultureart.com

intercultureart.com

©Interculture Art Inc.



©シックスセンス 京都